被災の中で市民新聞発行、復興へ手応え

輝け地方自治〈5〉

川西市職員組合

応援に入った京都自治労連の仲間と一緒に市民対話

阪神大震災で全壊・半壊一千八百三十棟、避難所生活者六百人以上、都市ガスもストップした川西市ですが、市職員組合が市の対策本部と連携し「地震災害情報」をまとめた市民新聞を発行し、復興へむけた相談会も開催、市民から喜びの声が湧き上がっています。

配布・要求市民新聞 各戸聞き取り調査

震災で生活が混乱し、まだまだ不安な日々を過ごしている二月五日、川西市職員組合は、震災対策を特集した市民新聞を発行し、被害の大きかった地域と避難所中心に一万五千部を配布し、市民要求の聞き取り調査も行いました。

市民新聞発行の動機を今西書記長はこう語ります。

「情報が施策ごとにバラバラで地域に入るため市民にはわかりにくかったのと、各種制度が日々変わっていくため、市広報が発行日の関係で古い内容になってしまうこと、また、行政では伝えにくい生活情報や相談所も職員組合なら載せられることもあり、市民に少しでも役立つならばと思ったんです」。

また、「各戸配布や編集には、京都と大阪の自治労連から支援があり助かりましたし、組合員も二十四時間勤務の疲れも見せず参加してくれました」といいます。

「まさに、これが自治体労働運動や」と

避難所を回って市民新聞を配った穂積委員長は、「職員組合から来たと言うと、自治会役員や民生委員の方から『まあ座ってください』と歓迎され、住宅確保や子どもの学校のこと、今後の展望などの要望が切々と語られ、『こんな時こそ、あんたらがんばってや』と激励されました。住民と一緒に協力し語り合う『職員組合』。心強い連帯感になった運動への手応えも感じました」と言います。

「こんな時やから、あんたらがんばってや」

市民新聞を前に避難所で市民と語り合う穂積委員長

また、市民新聞を配ったその日から、「うちの自治会で近所に配らせて」、「お風呂情報助かりました」など組合事務所に感謝の電話や訪問も相次いでいます。参加した組合員も「声をかけると必ず出てきて話ができる。個別訪問を強めていくのが大切」「まさに、これが自治体労働運動やと思った」など運動への確信が深まりました。

かわにし市民しんぶん　川西市地震災害情報 特集号
今こそ、政府が特別の救援措置を
川西市職員組合が政府へ緊急の申し入れ
みんなの力を、ここに、川西市被災地域の復興を
地元でも、全国からも 支援・ボランティアの手！温かく
復旧生活情報・救済制度は3、4面に特集
市民新聞

市民新聞に共鳴 相談会に市民が協力

二月十二日には、自治労連現地対策本部と共催で市民相談会も開設しました。

「市民新聞見て来ました」「職員組合主催なので来ました」と三十二名の市民が訪れ、ボランティア協力の弁護士、銀行員七名と個別面談に。また、「市民新聞に共鳴したから」と五名の市民が受付、接待に協力してくれたと言います。

今、川西市では震災からの確かな復興が始まっています。

消防・消火体制の充実は急務

直ちに30万人の消防体制を

国民の生命まで削る「行革」ストップ！

戦後最大の犠牲者をだした阪神大震災では、消防・救援体制の抜本的強化があらためて強調されました。

日本の消防体制は、国が定める「消防力の基準」にさえも満たず、消防施設、職員配置は基準以下（別表）です。これでは国民の生命と財産をまもるどころか、人命救出・消化の即応対応も間に合わず、天災から人災による被害の拡大という最悪の事態となったのが今回の阪神大震災でした。

しかし今日、消防は「行革」のもとで、人も装備も予算も削られています。

「管内の職員数は九十七人で、国の基準より六十人も足りない。このような状況は全国多くの消防職場でみられます。こんなに少ない職員では、大事故・大災害が起きたら大変な事になると、消防職員はいつも口にしています」と現場の実態を訴える「千葉県八日市場市外三町消防職員の裁判闘争を支援する会」事務局長の日色昭浩さん。

いま緊急にもとめられるのは、軍拡や巨大開発公共事業中心の政治から消防・防災につよい街づくりへの政治の転換です。そして、国基準の百％充足と、地域に密着した消防体制と大災害への全国的、広域的対応が必要です。そのためには、消防対策費や耐震性貯水槽の補助金までカットしてきた歴代内閣の「行革」を直ちにやめることです。

「いつ起こるかわからない災害にも住民が安心して暮らせる消防行政の充実と職場の改善が消防職員の願いです」と日色さんは強調します。

自治労連は、国の消防車や職員の配置基準を見直し、さらに十万人の増員と設備の充実をはかり、当面三十万人消防体制の確立を求めます。また、耐震性防火水槽を小学校区に一ケ所以上設置し、少なくとも全国で十万カ所以上の設置を求めていきます。

同時に「労働条件や仕事の改善で意見を言えば頭ごしに怒鳴られる」（日色談）封建的な職場から、国民の生命と財産を守るにふさわしい消防職員、人間らしくはたらける消防職員の保障としての団結権の確立めざし運動をすすめます。

消防力の基準と現況

（消防庁資料）1993年4月1日現在

区分		基準数	現有数	充足率
消防施設	消防ポンプ自動車	25,861台	22,930台	88.7%
	小型動力ポンプ	52,762口	39,624口	75.1%
	はしご自動車	1,973台	1,259台	63.8%
	化学消防ポンプ自動車	1,554台	931台	59.9%
	救助工作車	1,427台	814台	57.0%
	救急自動車	4,899台	4,880台	99.6%
	消防水利	1,828,476基	1,402,621基	76.7%
現有車両に対する消防職員		200,190人	141,403人	70.6%

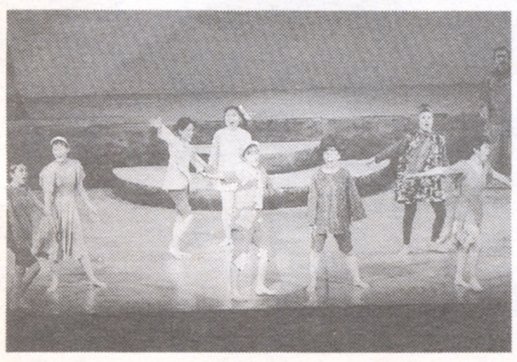
あの街、この街、職場から

保育部会で最新の情勢を学習

山口

山口自治労連保育部会は、一月二十二日、県内各団体にも呼びかけ、学習会を開催。五十二人が参加、保育研究所所長の村山祐一氏より、「国、厚生省の動向と、今、わたしたちがすべきこと」の公演がありました。（写真）

〝キララとポロロの冒険〟公演

大阪

岸和田市を貫流する春木川。その川の汚さに胸痛める市民の心を歌と芝居で訴える、市民公募の出演者による〝市民音楽祭〟が二月四日、五日に開催されました。撮影はプロカメラマンの小森和夫さんです。（写真）